

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 金沢市立森山町小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒920-0843

石川県金沢市森山町二丁目13番50号

E-mail : moriyama-e@kanazawa-city.ed.jp

Website : http://www.kanazawa-city.ed.jp/moriyama-e

児童生徒数：男子 180名 女子 154名 合計 334名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校は金沢市の北部に位置しており、明治13年1月に開校し、今年度は創立134周年を迎えている。全校児童は332名、教職員は25名である。

校区は、昔ながらの商店街や住宅地が地域の大半を占め、近くに卯辰山や浅野川があり自然環境に恵まれている。金沢の観光名所である金沢城、東山茶屋街に近く、また茶道で有名な寺院も多く、和菓子店、金箔店など金沢の伝統文化を受け継いでいる店も残っている。

ユネスコスクール認定を受け6年目となり、「地域の文化・自然や人との絆」をテーマに、地域の素材・題材を開発・教材化し、体験学習を取り入れた学びのプロセスを重視した持続発展教育の実践に取り組んでいる。

3年「発見 和菓子のひみつ」～知る・関わる（和菓子づくり、お茶会など）・広める～

7月1日、氷室の日に氷室まんじゅうを食べる風習を調べることで、金沢には、「夏を元気に乗り切りたいという思いや願い」や「氷室の氷を献上した歴史」があることを知った。和菓子の歴史や種類を調べていく中で、「正月の福梅や雛祭りの金花糖、婚礼の際の五色生菓子など、金沢にしかない和菓子があること」「和菓子には、人々の幸せになりたい思いや願いが込められていること」「季節や行事に合わせて、色や形、図案が工夫されていること」などを学んでいった。

紅葉の秋には、自分でつくったお茶碗と和菓子で、お茶会を校区の寺院で行った。お茶会では、相手をもてなす心に触れることができた。和菓子づくりを校区の和菓子店職人さんより習ったが、和菓子職人さんの和菓子づくりに込める温かい気持ちに触れ、授業の終末には、和菓子学習でお世話になった方へ手紙を書くなど、感謝の気持ちを伝える活動へとつながっていった。

地域の文化のよさを感じ取り、「和菓子の消費が日本一である金沢」の人々の思いや生き方に触れ、自分たちも昔から受け継がれてきた風習や、和菓子にこめられた思いを大切にしていこうという気持ちをはぐくむことができた。学んだことは国語科との関連をはかり、新聞や報告書にまとめ、家族や来校者に伝える活動へとつなげていった。また、図工科では「創作和菓子づくり」の活動を設定し、季節や思いに合った色・形・表し方を工夫して紙粘土で制作した。

4年「金沢箔」～知る・関わる（職人さん）・考え行動する・広める～

金箔体験教室「金箔皿づくり」の制作から、「紙より薄いこの金箔はどうやってつくるのだろう？」という疑問を持ち、探究的な学びを展開していった。

「箔座」に見学へ行き、金箔を作る工程を実際に見たり、職人さんの話を聞いたりすることができた。また、金箔をつかった工芸品や商品を目の当たりにし、金箔の美しさを実感することができた。金箔を張り詰めた茶室やトイレには、感嘆の声がもれていた。

安江金箔工芸館では、箔打ち用の和紙づくりには浅野川が大切な水源となっており、右岸に位置している森山校区には、金箔を打つ職人さんが多くいたこと、職人さんの減少、「金沢箔」の現状などを聞いたりすることで、このままでは「金沢箔」がなくなってしまうのではないかとその思いを持つ子どもの姿が見られた。

こうした「金沢箔」のすばらしさや現状を知った子どもたちは、自分たちも、今、「金沢箔」のためにできることはないかと考えた。そして、「金沢箔」のすばらしさや学んだことを家族や森山町小学校の人たちに伝えるためにリーフレットを作成した。「金沢箔」という伝統文化を大切にしたい、「金沢箔」の盛んな森山地区を誇りに思うなどと発表する子どもたちの姿も見られた。

5年「郷土食品『麩』から学ぶ」

～知る（麩の工場見学）・考え行動する（創作レシピ）～

「麩」は金沢の伝統食品である。校区近くにある宮田麩工場を見学し、工場に立ちこめる美味しい匂いやできたての麩のおいしさから、「麩を使った創作レシピを考えて作ってみよう」との意欲へつなげていった。

うまみ成分を吸う麩の特質を生かし、宮田さんや保護者の協力を得て、「麩のステーキ」「お麩の卵とじ丼」「麩カツ」など子どもが考えた創作料理に取り組んでいった。

また、宮田麩社長さんの、「食に対する信念」や「食の安全」についての話を聞く中で、郷土食品を大切に守ることのすばらしさと大変さを学んだ。宮田麩のように「安全な食品を提供することが使命である」と言い切ってくれる食品工場が郷土金沢にあるということ子どもたちは、誇りに感じることができた。

6年「思いを込めた加賀友禅 卒業証書台紙づくり」

～知る・関わる（卒業証書台紙作り）・考え行動する・広める（市役所での友禅卒業証書作品展示）

本校では、19年間6年生が加賀友禅の卒業証書台紙づくりに取り組んでいる。卒業式には、自分の加賀友禅の卒業証書を持ち、中学校への決意や将来の夢を語る。

子どもたちは、まず「加賀友禅とは何か？」を調べ、草花などを写実的な絵柄にし、「ぼかし」や「虫喰い」といった独特の技法を用いた、品格のある染め物であることを知る。また、浅野川でおこなわれる友禅流しは、金沢の風物詩となっていることなどを学んでいった。次に全工程のうち、青花下絵、糊置き、彩色、友禅流しの4つを友禅の先生方に教えていただきながら、体験した。作業は細かく集中力が必要であることから、職人さんの苦勞に気づいたり、加賀友禅の仕事に誇りを持つ作家の先生方の生き方にふれたりすることができた。

さらに、生活スタイルの変化から着物の売れ行き減少、後継者不足などの厳しい現状を知ること、「自分たちが今できることは何か」を考える学びへとつなげた。まずは金沢市民がこの友禅のすばらしさを再認識することが大切であるとの考えに至り、自分たちが作った「友禅卒業証書台紙」をより多くの人に見てもらいたいと考えた。金沢市教育委員会、市役所の方々の協力を得て、市役所のエントランスホールに一月間、加賀友禅卒業証書台紙作品を展示することができた。子どもたちは加賀友禅の学習活動を通し、地域の文化と人との絆を強め、伝統文化を大切に思う心を育むことができた。

2 成果と課題

- ・ 森山の地域にある伝統産業や地域文化を教材化し、他教科との関連を図り、「知る」「関わる」「考え行動する」「広める」の4つの段階を大切に探究的な学習を進めることができた。ねらいや評価規準を明確にして継続的に学習できるカリキュラムとし、学びの軸がぶれない学習展開を試みることができた。
- ・ 子どもたちは、地域の良さを学んだことで、このすばらしい伝統産業・文化を大切にしていきたい、伝えていきたいという思いを持つことができた。
- ・ 地域の文化・自然や人との絆を取り入れた学習を継続していくために、カリキュラムを改善したり、昨年度の「森山町小人材バンク」のデータを更新したりして、次年度の担当者が、その資料を活用し再構築できるようにした。
- ・ 課題発見能力や課題追究力を高める指導の工夫が必要である。課題に対する「学び方」について教師が共通理解を図り、「学び方」を教え、積み上げていく事で、子どもたちが、見つけた課題から「自分にできることは何か」という視点で、主体的に考え行動（発信）していく場面を設定していく。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）